



日本化学会春季年会在船橋校舎で開催されました。実行委員長は大月穂教授、他の工化会メンバーも副委員長等運営を担当



日本化学会
第106春季年会(2026)

会期 2026年3月17日(火)~20日(金)

会場 日本大学理工学部 船橋キャンパス

主催:公益社団法人 日本化学会

工化時報

第42号



Since 1938



MDASH 数理・データサイエンス・AI
Literacy 教育プログラム認定制度
リテラシーレベル

MAC
DEPARTMENT OF
MATERIALS
AND
APPLIED
CHEMISTRY

日本大学は、令和8年3月2日付で文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (MDASH) リテラシーレベル」に採択されました。



2025年11月23日(日)、日本大学の16学部86学科が集結する「オープンユニバーシティ」が開催されました。学部・学科を横断して見学や比較ができるイベントとして来場者から好評を博しました。

工化会会長あいさつ

工化会会長 伊藤和宏

(昭和 59 年修士修了)



工化会会員及び関係者の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃は、工化会活動にご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。2025 年は、「日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が大盛況のうち終了した中で、コメ不足をはじめとした食料品等の「物価上昇」、過去最多の被害をもたらした「クマ被害」が日常生活を送るうえで、苦労の種となっておりましてお察し申し上げます。2026 年は、何事もなく穏やかに年が明けたと思いましたが、日本列島各地での地震、並びに気候変動がもたらしている山林火災の発生、また日本海側を中心とした大雪や暴風雪で生活に不安をもたらす社会的な出来事が報じられています。そして、能登半島地震から 2 年が経ちましたが未だに復興への道のりは依然と厳しく、ご苦労をされている方々には、改めて心よりお見舞い申し上げます。

私事になりますけれども、本学においてここ数年は暗いニュースばかりでしたが、新年早々に、箱根駅伝において 12 年振りにシード権を獲得したことで活力を頂き、目的・目標に向けて達成する気持ちを持つことの大切さを改めて実感いたしました。皆様はどのような気持ちを抱きましたか？

さて、2025 年度の工化会の主な事業活動についてご報告させていただきます。

(1) 通常総会の開催

2025 年 6 月 7 日に通常総会を 446 名(内委任状 360 名)の出席者により開催いたしました。総会では、会報誌「工化時報」、部会年会費等、経費に直接関与する貴重な意見を頂きましたが、2026 年度の検討事案の一つとさせて頂き、審議事項の案件はすべて「承認」されました。有難うございました。

(2) ホームカミングの開催

通常総会終了後、ホームカミング含めた懇親会を開催いたしました。2025 年度に還暦を迎えた卒業生をホームカミングとして招待いたしました。招待者 3 名の方を含めて 95 名の卒業生(教職員含)が参加し、旧交を温める良い機会となりました。懇親会時に毎回思うことは、不確実性の高い時代を生きる私たちに、残された最大の資産は「人」ではないでしょうか。生成 AI が仕事や生活に浸透してきた時代ですが、AI は、未来を完全に予測することはできないとされています。「人との交流によるコミュニケーション」から未来を予想することができ、世の中を作っていくのではと感じま

した。今回初めて参加された皆様、是非、来年度の総会、懇親会にもご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。また、総会、懇親会に一度も参加されたことがない会員の皆様、楽しい一時を一緒に過ごしてみませんか。

(3) 工化会 在学生支援活動について

「在学生への支援活動」は、工化会活動の主目的であり、今年度も引き続き、駿河台校舎にて「工化会学生メンバー交流会 2025」を開催いたしました。

① 第1回目は、6月21日(土)「学生生活の疑問や悩み」について、学部1～2年生を中心に上級生とコミュニケーションを取りながら、ワークショップ形式で行いました。

② 第2回目は、7月5日(土)「大学院進学とキャリア構築」を題材にして、大学院進学希望者と大学院生を対象に、大学院修了のOB・OGからご講話を頂き、意見交換を実施しました。

③ 第3回目は、令和8年2月7日(土)学部1年生を対象に「駿河台での生活に向けたオリエンテーション」と銘打って、2年生以上の上級生から情報提供をしていただきました。

いずれも、活発な意見交換ができた場となり、その後の懇親会では教職員および工化会役員の関係者も参加され、深掘した意見交換によって親睦を深められたことが、参加された学生にとっては、いくらかは不安感を解消できたのではないかと感じました。滞りなく企画・運営をしていただきました工化会学生委員企画推進グループの皆様にご感謝申し上げます。

また、他の事業活動として、新入生には、化学実験等で使用する「保護メガネ」の贈呈、在学生には、各種講演会の開催、就職活動体験談セミナー、学位記伝達式において、学部卒業生及び大学院修了生に対し、桜工賞、工化会賞、創設80周年記念(若手研究者支援、奨学生支援、奨励賞)の各賞を授与致しました。

(4) 物質応用化学科教室の動き

教室主任から、物質応用化学科(旧工業化学科)は、令和10年度に創設90周年を迎えるにあたり記念行事を挙げる旨の話があり、工業化学部会として後援することといたしました。なお、学科教職員及び工化会役員を中心とした「90周年記念準備委員会」が設置され、開催に向けた準備が進められております。卒業生の皆様の中で、90周年記念準備委員会に参画されたい方がいましたら歓迎いたします。

最後に、2026年の干支は、「丙午(ひのえ・うま)」だそうです。「午(うま)」は、成功・繁栄のシンボルとして、縁起の良いものとされているようです。さらに「丙(ひのえ)」は、植物の成長に例えると「成長が著しい状態」を意味しているようです。新たに旅立つ卒業生の皆様、新社会人としての成長と実り多き一年となりますようお祈り申し上げます。また、会員の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。なお、引き続き、工業化学部会へのご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。 以上

令和 7 年度 就職状況



応化進路指導委員会

委員長 遠山 岳史
(平成 11 年博士後期課程修了)

令和 7 年度の就職状況について報告いたします。令和 8 年 1 月中旬時点における進路決定率は、学部卒業予定者が 91%、大学院修了予定者が 93%となりました。これは、昨年度同期の水準(学部 91%、大学院 97%)と照らしても概ね堅調な推移を維持しております。本冊子が発刊される頃には、ほぼすべての学生の進路が決定し、4 月からは工化会の新たなメンバーとして社会で活躍しているものと期待しております。

近年のマスコミの報道では、就職内定時期が 3 年次の 12 月頃まで早期化している、といった動向が大きく取り出されています。確かに、高度な専門知識を有する大学院生の中には、早期のインターンシップ等を経て年内に内定を得る学生も一定数存在します。しかしながら、学部 3 年生においてはちょうど研究室配属がなされた直後であり、自らの研究テーマも定まっていない段階で将来の進路を確定させることは容易ではありません。文系主導のスケジュールが先行する一方で、理系の学部生は例年通り 12 月頃から本格的な準備を開始し、4 年次の春に内定を得るサイクルが実態となっております。このように、大学の教育カリキュラムと世間の採用活動のタイミングには大きな乖離が生じており、教育の質を担保しつつ、いかに整合性を取っていくかが進路指導における喫緊の課題となっております。

こうした状況下、学生への具体的な支援として、3 年次後期の「キャリアデザイン」の講義内に企業担当者を招いた業界セミナーを組み込むとともに、その集大成として『第 12 回「夢」実現プロジェクト』を開催いたしました。本年度は例年より時期を少し前倒しし、11 月 27 日(木)に CST ホールにて実施し、企業 42 社にご参加いただき、学部生・大学院生合わせて 200 名を超える学生が参加しました。このイベントは、学生たちの意識を切り替え、主体的な活動へと促す重要な契機となっております。

一方、大学院への進学については、例年 20~30%の学生が修士課程に進んでおります。昨今の好調な就職状況を背景に、学部卒での就職という選択肢も魅力的であるなか、あえて進学を選び、より高度な専門性を身に付けようとする意欲

的な学生を一定数確保できていることは嬉しい限りです。さらに、2026年度より、大学院担当 大月穰 教授のご尽力により、理工学研究科 大学院博士後期課程の進学者・在校生を対象とした「研究奨励費」の支給が決定いたしました。これにより、入学金や諸会費等を除いた授業料が実質無料となり、経済的懸念を払拭して研究に没頭できる環境が整います。この制度を足がかりに、今後は博士後期課程への進学者も増加し、本学出身の高度な研究者・技術者がより広く社会に貢献することを期待しております。

最後になりますが、2026年3月に発生した米国によるイラン攻撃など、不透明な中東情勢は我が国の経済、ひいては次年度以降の採用動向に影響を及ぼすことが懸念されます。情勢を注視しつつ、学生が最善の進路を切り拓けるよう尽力して参る所存です。工化会の皆様におかれましても、引き続き学生への暖かいご支援と、積極的な受け入れを賜りますようお願い申し上げます。



2025年度「夢」実現プロジェクト風景

物質応用化学科(2027年3月卒業)対象
「『夢』実現プロジェクト」座談会形式
の業界・企業徹底研究セミナー
 ～あなたの知りたいこと、徹底たいだけ聞いてください～
※ 15:20 開始

日時: 令和7年11月27日(木)
 集合: 1号館5階 152,153教室 13:20
 開催: 1号館6階 CSTホール

多目的燃料添加剤の製造・販売
有限会社深澤化学研究所
 〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24
 昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史

～アイデアを財産へ～



かもめ特許事務所

Kamome Patent Attorneys Office

231-0005 横浜市中区本町1-7 東ビル4階
 平成10年卒 弁理士 荒井 滋人
 info@kamomepat.com TEL: 045-319-4466

令和 7 年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞受賞などの活躍をご紹介します。(集計期間：令和 7 年 2 月～令和 8 年 2 月)

【教員の部】

- ・ 栗原清文 (化工) 分離技術会 年会 2025、功労賞
- ・ 須川晃資 (超分子) International Association of Advanced Materials, Advanced Materials Fellow

【学生の部】

- ・ 伊澤太智 (化工) 化学工学会超臨界流体部会第 24 回サマースクール、優秀学生賞
- ・ 鈴木聖哉 (分析) 第 92 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第 128 回計測自動制御学会力学量計測部会・第 42 回合同シンポジウム、優秀ポスター賞 (若手の部)
- ・ 岡部涼風 (分析) 第 92 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第 128 回計測自動制御学会力学量計測部会・第 42 回合同シンポジウム、優秀ポスター賞特別賞 (切れ味鋭いで賞)
- ・ 鈴木美穂 (環微) 「第 12 回高分子学会グリーンケミストリー研究会シンポジウム」および「第 26 回プラスチックリサイクル化学研究会研究討論会」合同研究発表会、優秀発表賞
- ・ 河村慶弥 (高工) 「第 12 回高分子学会グリーンケミストリー研究会シンポジウム」および「第 26 回プラスチックリサイクル化学研究会研究討論会」合同研究発表会、優秀発表賞
- ・ 鈴木聖哉 (分析) 分離技術会 年会 2025、学生賞
- ・ 田中悠太郎 (分析) 分離技術会 年会 2025、学生賞
- ・ 山本 凌 (化工) 分離技術会 年会 2025、学生賞および企業奨励賞 (住友重機械プロセス機器株式会社)
- ・ 田中未夢 (化工) 化学工学会八戸大会、学生特別賞
- ・ 山崎陸人 (化工) 化学工学会八戸大会、学生特別賞
- ・ 野田一花 (化工) 化学工学会八戸大会、学生奨励賞
- ・ 秋富称李 (超分子) 10th Asian Conference on Coordination Chemistry (ACCC10), The Best Poster Award
- ・ 鈴木綾華 (無機分) 無機マテリアル学会第 151 回学術講演会、優秀講演奨励賞

- ・ 藤井侑也 (超分子) 第 44 回固体・表面光化学討論会、若手優秀講演賞
- ・ 塩田隼也 (無機分) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(口頭)
- ・ 岡田夏穂里 (無機材) 2025 年度材料技術研究協会討論会、口頭講演賞
- ・ 川上陽大 (無機分) 第 6 回酸素酸塩材料科学研究会、最優秀講演賞

【OB・OG の部】

- ・ 佐藤慎一 氏 (工化会役員)
第 74 回ネットワークポリマー講演討論会、第 48 回 (2025 年) 合成樹脂工業協会協会賞「学術奨励賞」

クラス会・同窓会の報告**第 7 回有機合成化学同窓会総会 開催報告**

令和 7 年 10 月 18 日(土)第 7 回有機合成化学同窓会が開催されました。本同窓会は OB・OG が旧友との再会や懇親を図るだけでなく、現役学生と交流を持つことで、相互に利益を共有し同窓生としての「絆」を深めることを目的としております。

今回は、OB・OG および現役学生あわせて 93 名が集い、1 号館 2 階カフェテリアにて約 3 時間にわたり、和やかで楽しいひとときを過ごしました。久しぶりに再会した旧友との語りや、現役学生との交流を通して、世代を超えたつながりを感じられる会となりました。

本年も 10 月に第 8 回総会の開催を予定しておりますので、友人をお誘いあわせのうえ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

また、一昨年行われた郵便送料値上げの影響により、郵送での総会案内が困難な状況になりつつあります。この時報をご覧になられた有機合成化学同窓会 (有機同窓会・みどり会・PS 会) 会員の皆様は、右記 QR コードより Mail アドレス等のご登録をいただけますようお願いいたします。



2025 年度 「学生メンバー交流会」実施報告

本取り組みを立ち上げて早くも 3 年目、2025 年度の取り組みのご紹介です。

この「学生メンバー交流会」は、学生生活や就職活動などにおいて学生の皆さんに役立つ情報や機会を提供し、実りある学生生活の一助になりたいという考えのもと、2023 年度から取り組んでいます。

実施内容や時期・回数は、参加人数やアンケートの回答を踏まえて少しずつ変化を付けてきましたが、基本構成として年間 3 つの企画を開催しています。今年度の取り組みは以下の通りです。

①2025 年 6 月 21 日(土)

「学科内のネットワーク作り～なんでも情報交換～」

学部 1 年生から修士 2 年生までの幅広い学年に方々に参加いただき、大学生活におけるお悩みや工夫などの情報交換を主目的としています。特に学部 1 年生は入学後数か月というタイミングで、授業の取り方、将来イメージやサークル活動など、先輩方に色々と話を聴くことができる場として活用いただきました。

参加数：学部 1 年 (13 名)、学部 2 年 (3 名)、学部 3 年 (2 名) 修士 2 年 (1 名)、OB/OG (2 名) の合計 21 名

②2025 年 7 月 5 日(土)

「High career event～大学院卒業生交流会～」

現役修士学生ならびに大学院進学を希望する学部生を対象とし、修士課程を修了して化学、半導体、電気、非鉄金属などの業界をリードする企業で活躍する先輩方にご登壇いただきました。OB/OG からは業界動向、求められる人材像や働き方に加えて就職活動のポイントなどもお話いただいたあと、懇親会で直接対話できるイベントとして開催しています。

参加数：学部 2 年 (2 名)、学部 3 年 (10 名)、修士 1 年 (2 名)、OB/OG 講師 (6 名) の合計 20 名

③2026 年 2 月 7 日(土)

「駿河台キャンパス見学と公務員として働く OB が未来を語る！」

例年実施している新学部 2 年生 (現 1 年生) 向けの駿河台地区オリエンテーション企画です。このイベントは船橋校舎から駿河台校舎へ移る直前の学部 1 年生を対象として、駿河台 2 号館や 8 号館の見学と学食や図書館とお茶の水地区の

オリエンテーションを行っています。本年度は新たな取り組みとして「公務員として働くOBが語るキャリアのリアル」と題して税関と警察、教職として活躍されるOBからのお話を聴く機会を設定しています。原稿作成時点で開催前のため、参加人数については割愛します。

毎回の開催時のご意見やアンケートを通して、常に企画のアップデートを継続していますが、ご協力いただいたOB/OG各位のお力添えもあり、各回とも20名前後の参加者を迎えることができました。

これまでの開催を通じて、若手のOB/OGメンバーも定期的に参加いただける方が増えてきて、そこから同期のつながりに拡大していくことが期待されます。また、各イベントにおけるOB/OGとのコミュニケーションをもとに就職活動において内定につながった事例も出てきており、イベントを開催するだけでなく、その先に繋がりと感じています。

情報が氾濫する社会生活に向けて多くの不安も感じる現役学生の皆さんに、このような直接コミュニケーションを通して、情報収集やネットワーク作りの機会を今後も継続してまいりたいと思います。



学生メンバー交流会

上：2025年7月5日(土)

下：2025年6月21日(土)

学生メンバー交流会事務局（文責：戸田 篤志）

日本大学名誉教授および理工学部校友会顧問であられました和井内 徹先生(昭和27年卒)におかれましては、令和6年にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

日本大学名誉教授および元理工学部校友会役員であられました真下 清先生(昭和41年卒)におかれましては、令和7年6月15日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

令和 7 年度 広報活動

今年度は、外部向けの施設公開イベントとして、6月15日にオープンキャンパス駿河台、8月2日～3日にオープンキャンパス船橋を実施しました。昨年度に続き多くの方にご来場いただき、駿河台では565名、船橋では1,528名の高校生や保護者の皆様に物質応用化学科の展示・イベントへご参加いただくことができました。今年の学科展示では、研究室ごとの最先端の研究紹介に加え、大学での学びにさらに興味・関心を持っていただくための模擬講義を実施しました。1つ目は、環境微生物学研究室の鎌田健一先生による『タンパク質の形を解き明かし、機能をデザインする』、2つ目は、高分子工学研究室内の清水 繁先生による『なくてはならない高分子』です。いずれも立ち見が出るほどの盛況ぶりで、熱心にメモを取る高校生の姿が印象的でした。また、今年度の大きなトピックとして、学科公式ゆるキャラ「けみお」が誕生しました！イラストレーターの ぱらどっと 氏にデザインしていただいた「けみお」は、親しみやすいビジュアルで、教職員・学生のみならず受験生からも早くも人気を集めています。さらに、2月21日(土)にはオンラインでの理工学部合格者相談会、翌22日(日)には対面での物質応用化学科合格者相談会(施設見学)およびオンライン相談会を実施いたしました。入学を控えた受験生へ、化学の楽しさと本学の充実した教育環境をダイレクトに発信しました。



オープンキャンパス船橋における応化ブース風景



けみお

一方、来校型イベントのほかにも学外での活動も精力的に行っており、一都三県の高校へ本学科教員が訪問し、理工学部および学科の魅力を伝える説明会を実施しております。

オンライン上での広報活動としては、Instagram や Facebook に加え、X (旧 Twitter) 等の SNS を通じて週 3 回程度の頻度で情報更新を行っています。学科の日常や研究成果、イベント情報などをリアルタイムでお届けしていますので、ぜひ QR コードからアクセスしていただき、今後とも温かい応援をいただけますと幸いです。



@NU.OUKA

令和7年度一日体験化学教室

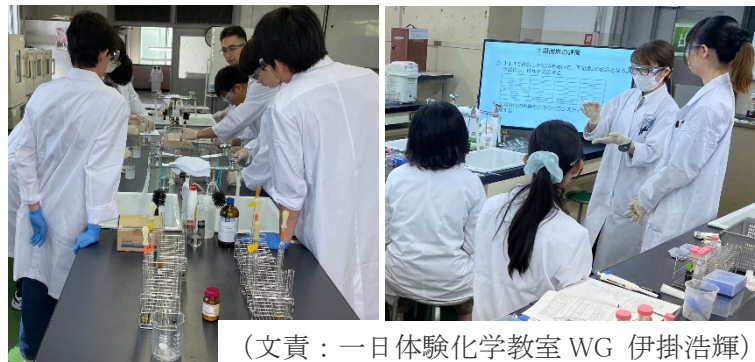
一日体験化学教室 WG
伊掛浩輝、内田悠子、光山繰美

今年も夏休みに入り、理工学部駿河台キャンパスは、夏のにぎわいを見せる。大学では「サイエンス」や「最新テクノロジー」に触れ、興味をもってもらおうと、多くのイベントが開催される。小学生を対象とした「夏休み『自由研究』教室」、高校生を対象とした「一日体験化学教室」。緊張と弾んだ声が行き交う季節でもある。

本年度の一日体験化学教室は、令和7年7月27日(日)に開催された。本教室は、1999年に、学科名が「工業化学科」から「物質応用化学科」へと改称された翌2000年より続く行事であり、気が付けば四半世紀を超える歴史を重ねてきた。高校現場では化学実験の機会が減少する中、化学に親しみ、楽しさを実感してもらいたいという思いから続けられてきた夏の催しである。お陰さまで本年度も募集開始後まもなく募集定員に達し、学科の夏の風物詩となっている。

今年度は、「太陽電池の作製」など再生可能エネルギーに関わるテーマや、身近な化粧品に着目した「化粧水における界面活性剤の役割」など、材料・環境・生命化学分野から13の実験テーマを用意した。白衣に身を包み、真剣な眼差しで実験に向き合う高校生の姿は、研究室の日常と重なり、教員・学生にとっても印象深い光景であった。

近年は、高校1年生の参加も増えて、エネルギーや環境といった社会的な課題への関心が高いのも特徴と言えよう。化学は紀元1世紀頃から、人類の歴史とともに歩み、発展し、化学が無くては世界が成り立たないほどの高度物質文明社会を静かに支え続けている。これからも多くの高校生に、化学を知ってほしい、そして、何よりも純粋に化学の楽しさに触れてほしい、そのような思いを胸に、来年度もまた、多くの若い世代が化学と出会う夏を迎えられるよう、次回の実験準備を進めている。今後とも、皆さまの温かいご支援とお力添えを心よりお願い申し上げます。



(文責：一日体験化学教室 WG 伊掛浩輝)

新 任 紹 介

分析化学研究室
教授 山田 和彦



この度、2025年4月1日付けで分析化学研究室に着任しました、山田和彦と申します。長年の伝統を有する物質応用化学科の一員になれたことを大変うれしく思います。専門は核磁気共鳴法を用いた物性研究並びに装置開発です。前職場から超伝導磁石を含む大型機器の引っ越しをしました。いきなり、ドアの高さが不足して超伝導磁石が部屋に入らない、という洗礼を受けましたが、都心に80年を超す由緒ある建物に研究室を構えることは格別です。文豪が定宿とした山の上ホテルのような、落ち着いて研究ができる環境に感謝しております。今後とも本学科の更なる発展に尽力してまいりますので、皆様のご支援・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

令和7年度創設80周年記念賞受賞者

本年度の受賞者は以下のとおりです。おめでとうございます。今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

奨学生支援：高分子工学研究室（星） 大湖 俊弥 さん

私は超臨界二酸化炭素中を用いて熱によって接着できるポリビニルアルコールを開発する研究を行っています。工化会からのご支援により大学院に進学し、研究に打ち込むことができます。卒業後は社会に貢献できるよう頑張ります。ご支援ありがとうございます。



PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社



〒348-0038 埼玉県羽生市小松台1-603-29
TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界シェアトップレベルを支えています

昭和53年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

新任紹介

環境微生物学研究室
助教 鎌田 健一



令和7年4月1日付で環境微生物学研究室に助教として着任いたしました、鎌田と申します。構造生物学分野を専門とし、タンパク質の構造・機能解析を中心に研究を進めております。着任当初は不慣れな点も多く、試行錯誤の連続でしたが、教育・研究の両面において多くの先生方や学生の皆さんに支えていただき、無事に1年を過ごすことができました。これまでご指導いただいた先生方、学科事務室の皆様、また至らぬ点も多い中で共に歩んでくれた学生の皆さんに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。少子化が進み、多くの大学が厳しい状況に直面することが予想される中ではありますが、本学科がこれからも活気ある教育・研究の場として発展していくことを、心より願っております。

新任紹介

超分子化学研究室
助手 大野 桂史



2025年4月より助手として着任いたしました大野桂史と申します。学生時代は東邦大学理学部および埼玉大学大学院理工学研究科において、多核遷移金属錯体を用いた超分子化学や電気化学に関する研究に取り組んでまいりました。学位取得後は、埼玉大学にて産学官連携研究員として勤務した後、日本女子大学において助教として遷移金属錯体の電気化学、触媒化学ならびに光化学に関する研究を行ってまいりました。本学に着任以来、まだ不慣れな点も多く、試行錯誤の連続ではございますが、先生方の温かいご支援のおかげで、何とか一年を過ごすことができました。至らぬ点多々あるかと存じますが、今後とも工化会の皆様からのご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

退任のごあいさつ

化学工学研究室
教授 栗原 清文
(昭和60年博士前期課程修了)



このたび、定年を迎え、昭和60（1985）年4月1日から副手（今はもうない役職です）として物質応用化学科（当時は工業化学科）にて勤務を始めてから数えて41年間の勤務を終えて、令和8（2026）年の3月31日をもって退職することとなりました。長い間、皆さまにご支援いただきながら、化学工学研究室に所属して働くことができたことを心より感謝申し上げます。

振り返れば、たくさんの学生たちや教職員の皆様と出会い、その一人一人が私にとって大切な財産となりました。初々しい新入生たちが、自信を持ち希望に目を輝かせながら修了・卒業していく姿を見るたびに、教員という仕事を続けてきて本当に良かったと感じてきました。また、日々の教育・研究・校務をともに支えてくださった化学工学研究室の先生方を始め、教職員の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、教員としては在職中、助手から教授まで昇格することができました。ただこの間、平成17（2005年）4月1付けで教授に昇格するとともに当時の日本大学短期大学部応用化学科に所属替えとなり、平成23（2011）年4月1日には再び理工学部物質応用化学科に所属替えしました。かつ、私は短期大学部では5年間（平成18（2006）年度～平成22（2010）年度）学科長を、物質応用化学科で3年間（令和4年（2022）年10月～令和7（2025）年9月）教室主任を務めました。これらは私にとって想定外のできごとでしたが、今となれば貴重な経験を重ねられたと思っています。やはり長い人生においては、何事も「やり抜くこと」が大事だということなのでしょう。

なお私の今後ですが、令和8（2026）年4月1日からしばらくは特任教授として学科や工化会のお役に立てればと考えておりますので、変わらぬお付き合いのほどをよろしく願いいたします。

最後に、物質応用化学科で過ごした時間は私の宝物です。これまでともに頑張ってきた教職員の皆さん、そして卒業生たちに心から感謝申し上げますとともに、学科ならびに工化会の発展をお祈りしております。本当にありがとうございました。

退職のごあいさつ

無機材料化学研究室
向後 光享
(平成31年博士前期課程修了)



2026年3月に退職することとなりました。3年間を振り返ると、学生実験に関する思い出がたくさんあります。私は学部2年生の学生実験を通年で担当させていただきましたが、着任したときに担当した学生たちは、いつの間にか4年生になっていました。3年間は非常に短いように感じましたが、初めて授業を担当した時、マイクロピペットの操作方法から教えていた学生たちが、今では研究室で卒業研究に勤しんでいる姿を見ると、とても感慨深い気持ちになります。非常に貴重な経験をすることができました。3年間携わっていただきました多くの方々に感謝申し上げます。大変お世話になりました。

「ゆく人、くる人」

退職される臨時職員の皆様

物質応用化学科事務室を支えてこられた 内田悠子様、野村佳菜子様、光山繰美様、材料創造研究センター 佐藤直人様が 2026年3月をもって退職されます。多大なるご尽力に深く感謝申し上げますとともに、皆様の今後のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

OB 近況報告：三柴晶子氏社長就任のお知らせ

平成元年卒の三柴晶子氏（高分子合成研究室）が、令和7年4月に王子イメージングメディア株式会社社長に就任されました。今後の更なるご活躍をお祈りいたします。

工化会顧問および理工学部校友会顧問であられました 倉形邦英 氏（昭和35年卒）におかれましては、令和7年1月21日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

工化会顧問および理工学部校友会顧問であられました 炭田幸宏 氏（昭和36年卒）におかれましては、令和8年2月23日にご逝去されました（享年87歳）。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

令和7年度工化会事業報告

令和7年度工化会通常総会は、駿河台校舎1号館6階CSTホールにて令和7年6月7日(土)15時から役員・会員446名(内委任状360名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務・会員・会報各委員会の令和6年度事業報告案、会計決算報告案および監査報告ならびに令和7年度事業計画案および会計予算案、役員の変更案、理工学部校友会個人表彰の推薦案、会則改正についての審議を行い、これらを承認しました。また、工化記念基金委員会の事業報告・事業計画、80周年記念基金の決算報告・監査報告・予算報告を行いました。通常総会終了後、1号館2階カフェテリアで懇親会を催しました。今年度の懇親会には昭和63年(学部)、昭和61年(短大)、平成2年(大学院博士前期)、平成5年(大学院博士後期)に卒業・修了された会員をホームカミングデーとしてご招待し、盛会のうちにお開きとなりました。

令和7年度事業として、工化会ホームページの運用と新入生への記念品贈呈および例年通りに学科主催行事の後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。また、学生が在学中に工化会との繋がりを持てるよう令和5年度から始まりました学生と卒業生との交流の場は「工化会学生メンバー交流会2025」として3回開催することが承認されました。

工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計44名には、3月25日(水)に大学院・学部・短大における学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。また、本学科の創設80周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(大学院博士前期課程進学予定の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支援は1名、奨励賞については大学院4名・学部6名・短大該当者なしに対して支援・授与が行われました。

令和7年度の工化会予算についてですが、本会では予算を経常会計予算と特別会計予算の2種類を編成しており、令和7年度経常会計予算は総額313.3万円で、その内訳は学生支援事業費が55.5万円、各種講演会・行事支援事業費として37.1万円、卒業生支援事業費は76.7万円、その他16.9万円、次年度繰越金が127.1万円であり、特別会計予算は総額676.0万円で、内訳は卒業生支援事業費に200.0万円、会費・

寄付金郵便振替対応業務として4.2万円、その他に26.1万円、次年度繰越金として445.7万円計上しています。なお令和7年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

令和7年度の工化会主催事業ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

① 4月12日(土)

学科新入生オリエンテーションで新入生への保護メガネ贈呈。

② 4月15日(火)

工化時報第41号 10,511通発送。

③ 5月10日(土) 15:00~16:55

第1回役員会：役員62名出席(内委任状18名)。

④ 6月7日(土) 15:00~16:30

通常総会：会員446名出席(内委任状360名)。

⑤ 6月15日(日)

オープンキャンパス駿河台2025：保護者含めて高校生565名が来場。

⑥ 6月21日(土)

工化会学生メンバー交流会2025(6/21)：学生19名、役員・会員14名が参加。

⑦ 7月5日(土)

工化会学生メンバー交流会2025(7/5)：学生14名、役員・会員18名が参加。

⑧ 8月2日(土)、3日(日)

オープンキャンパス船橋2025：保護者含めて高校生1,528名が参加。

⑨ 9月27日(土) 16:00~16:50

第2回役員会：役員62名出席(内委任状23名)。

⑩ 10月30日(木) 13:20~15:00

講演会「OBによる現役学生のための就活セミナー」：学生210名が参加。

⑪ 11月27日(木) 13:00~17:00

2025年度夢実現プロジェクト：企業42社、200超の学生が参加。

⑫ 12月6日(土) 16:00~17:10

第3回役員会：役員66名出席(内委任状30名)。

⑬ 2月7日(土)

工化会学生メンバー交流会2025(2/7)：学生15名、講師・会員・会員16名が参加。

⑭ 2月7日(土) 15:30~16:10

工化会賞選考委員会・工化記念基金評価部会：委員21名出席(内委任状10名)。

⑮ 3月25日(水)

令和7年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野学位記伝達式。

⑯ 3月25日(水)

工化時報第42号6,500部発行。

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿 (令和 8 年 2 月 1 日現在)

昭和19年卒	猿渡 義男	大村 俊晴	昭和41年卒	永田 勝彦
脇 幹夫	昭和34年卒	木村 次雄	伊東 孝雄	服部 正隆
昭和21年卒	大久保 勝弘	久喜 徹	石毛 哲男	平塚 良一
石川 幸一	加藤 嘉之	小松 洋	奈倉 正宣	宮内 和司
昭和25年卒	藤森 信正	栗田 公夫	中澤 豊	宮川 晃一
吉田 耕一	山谷 保二	永田 正巳	藤池 誠治	望月 昭宏
昭和26年卒	横川 徹也	長谷川 實	宮城 晃	森崎 正美
鈴木 信夫	栗原 孝夫	原田 文雄	村井 直樹	加村 尚喜
垣内 宏	昆野 澄夫	宮崎 興三郎	大内 邦夫	佐藤 宗衛
昭和27年卒	昭和35年卒	渡部 長幸	小菅 詔雄	瀬戸 博
柏木 治彦	安達 昭郎	新井 政義	沢田 金吾	寺田 高德
近藤 住吉	青木 滋夫	長嶋 潜	館 敏夫	昭和46年卒
東 昭	青木 弘	白石 益郎	彦田 一夫	大木 雅夫
高田 芳行	石原 義弘	杉田 松生	玉應 亨三	神崎 良一
昭和28年卒	江口 栄亮	藤掛 省吾	昭和42年卒	川島 英郎
鈴木 一成	香春 陸夫	昭和39年卒	荒川 直弘	菊田 茂
仁禮 誠二	笠井 啓也	秋本 幹夫	今田 雅躬	小谷 将彦
森 不二男	定方 聡博	梅原 達朗	岡見 宏道	齋藤 政久
佐藤 正巳	塩澤 進	金田 紘一	金塚 美喜男	杉田 康一
吉川 和夫	篠 大太郎	神谷 中	小宮 武男	鈴木 重衛
昭和29年卒	瀧澤 文男	渡辺 久和	露木 義行	吉広 邦夫
浅川 和昭	原 幹夫	北本 義征	栃木 勝己	高橋 秀樹
井上 秀雄	町田 収	児玉 義宏	中井 忠男	丹野 幸久
嶋田 稔	渡邊 高章	斎藤 伸之	豊田 文江	牧原 信太郎
寺島 昌訓	倉形 邦英	斉藤 守園	長谷川 元保	吉井 孝悦
長山 勝政	小峰 光弘	相楽 哲夫	古阪 一昭	昭和47年卒
八田 肇	須藤 隆司	瀬尾 宏	佐藤 馨	小町 勉
米山 廣保	関口 勝	竹石 肇	田中 秀也	駒屋 伸雄
昭和30年卒	島田 洋子	武田 幸久	富田 潤一	齊藤 菊夫
綾野 怜	山本 成也	奈良木 亨丞	山崎 博	丹呉 秀博
加藤 裕一	昭和36年卒	中田 博	昭和43年卒	鶴 達郎
近藤 練太郎	石井 照明	仲野 一次郎	浅井 保雄	何木 正芳
昭和31年卒	宇賀治 正名	野口 文雄	宇智田 俊一郎	藤木 孝人
伊藤 博国	小川 昌太郎	原 襄輔	海上 幸三	松本 謙
神戸 徳蔵	仮戸 斌	堀 是治	北村 正孝	昭和48年卒
小松原 彬	木佐貫 秀彌	田幡 安郎	佐藤 哲	伊藤 視朗
高木 弦	木村 繁夫	山崎 恭弘	村岡 研一	内田 雅樹
高橋 一正	佐藤 進	北村 隆	山梨 乾一	加来 文隆
横山 富雄	炭田 幸宏	小屋原 英雄	梅北 司	櫻川 昭雄
石塚 和三	高柳 裕臣	鈴木 良治	進藤 宣詔	重藤 峻一
柿澤 正彦	村田 敏弘	田中 誠悦	松村 清利	渋谷 修
網島 康晴	吉田 昌弘	高松 武生	昭和44年卒	戸早 哲太郎
田畑 調友	野村 友次	橋本 信之	石井 和夫	中村 宗光
昭和32年卒	若林 幸正	富士 光男	井上 隆	平林 明夫
阿久津 芳彦	小串 照宗	昭和40年卒	大橋 正宣	山中 操
網代 良太郎	昭和37年卒	有田 喜一	新藤 豊彦	渡辺 明典
竹原 晃	奥山 正之	上田 輝世	田中 敦	大高 由輝
東海林 正	梶山 秀矩	牛山 恵次	蘆原 洋二	川津 義人
池脇 敬宜	貞広 訓	沖本 武且	花井 秀之	坂口 信昭
笹原 孝	清水 大三	河村 勝弘	八幡 順一	関口 優紀
昭和33年卒	庄司 翠	清水 博太郎	小栗 勝治	藤井 克彦
阿部 正明	廣瀬 丈久	土田 紘一	昭和45年卒	矢田 智
加賀 勘之助	丸林 功	飯田 志雄	小林 満	昭和49年卒
柏崎 敏郎	宮澤 武次	飯野 宏治	篠崎 勝彦	飯塚 修一
熊谷 祐一	神保 進	高橋 志郎	田中 碩	菅野 昭
才木 義夫	長友 良久	武井 秀彦	滝戸 俊夫	久保 隆
齋藤 二郎	昭和38年卒	丹野 隆善	辰市 祐久	小林 正男
田口 稔孫	梅田 高生	西脇 鉄雄	土田 久	佐藤 憲一
守屋 伊佐雄	大野 維夫	飯原 打越	永島 一男	澤口 孝志

末木 康行	椎野 宏明	原川 優子	赤嶺 直美	平成19年卒
田島 平良	下田 清隆	前田 篤	高田 昌子	伊藤 拓哉
湯川 吉美	中村 真理子	矢島 浩之	平成4年卒	平成20年卒
野中 昭二	服部 洋一	山田 美穂子	小関 宣裕	小出 優一郎
野原 孝司	藤生 康彦	谷田貝 隆	萩原 洋子	平成21卒
南 茂樹	目良 昌三	久保田 博明	桐山 崇一	佐藤 克哉
元木 英二	谷藤 善美	昭和59年卒	佐藤 裕司	分部 美緒
山崎 純一	柳下 和彦	大坪 利彰	林 由浩	吉田 隼人
山中 光徳	佐野 謙一	小峰 昌弘	藤池 一誠	平成22年卒
昭和50年卒	鈴木 昌三	清水 繁	松田 和夫	高木 晃一
上田 賢二	昭和55年卒	高橋 克尚	平成5年卒	松本 理輝
小菅 信博	小出 真	長島 敬明	小泉 公志郎	平成23年卒
汐澤 日出夫	砂端 栄治	古川 博章	鈴木 理文	春日 龍史
神保 尚幸	松島 昇	小嶋 千津美	米田 哲也	加藤 慶子
中島 邦夫	丸山 博秀	中井 佳子	平成6年卒	平成24年卒
野原 正男	森 弘通	金子 隆博	佐々木 典世	中山 麗
服部 信和	昭和56年卒	昭和60年卒	石黒 香織	平戸 祐喜
中野 功	池田 実	石見 勝洋	遠山 岳史	渡貫 泰寛
末森 博文	木屋 幸蔵	古謝 修	齋藤 志乃	平成25年卒
昭和51年卒	今野 直哉	高橋 真	清水 祐一郎	金子 剛大
内野 好夫	後藤 真一	満田 泰志	平成7年卒	近藤 駿平
透 合	熊谷 一弘	高橋 宏和	岡田 賢識	田村 高大
三井 正二	大沼 明	昭和61年卒	奥村 佳代子	早川 麻美子
佐野 勝栄	三橋 昭男	稲葉 隆史	谷合 哲行	村松 優
嶋田 順一	有川 俊一	片桐 正志	平成8年卒	平成27年卒
塚本 正雄	昭和57年卒	小嶋 芳行	土山 人一	地湧 里奈
前田 勉	荒木 洋子	那賀 恵美子	加藤 太志	藤谷 昌弘
昭和52年卒	大内 高弥	福元 俊之	仁平 勉	南澤 宏瑚
大窪 峰裕	荻原 昭司	三原 公雄	原野 満実子	横地 慶亮
栗村 嘉明	黒坂 和弥	昭和62年卒	平成9年卒	杉浦 裕昌
荻原 謙二	田島 みゆき	加藤 徳次郎	浮谷 基彦	井上 悦宏
酒井 久男	井上 みどり	鈴木 雅明	木田 秀一	平成29年卒
志田 邦昭	小暮 勝彦	勝又 雅子	谷川 実	岡部 紗千
瀬戸 秀明	小們 幸夫	村田 真理	林 秀憲	向後 光亨
土岐 正史	佐藤 慎一	緑川 輝行	平成10年卒	平成31年卒
新国 貞幸	塩谷 仁	太田 陽子	荒井 滋人	永井 宏明
野坂 昌史	未澤 二郎	清水 恵樹	伊掛 浩輝	小池 祥子
深澤 豊史	室谷 隆子	根本 俊寛	横田 昇平	細谷 通佑
古越 宣正	中村 宏昭	鳥山 正晴	平成11年卒	令和5年卒
古橋 雄二	中村 明裕	昭和63年卒	樋口 孝夫	麻生 裕介
前川 幸生	野澤 昌史	鎌田 哲彰	平野 壮哉	田村 淑乃
山田 勝彦	久松 美樹	敷野 修	松田 弘幸	中山 大輝
山田 忠雄	三根 郁夫	中道 幹芳	平成12年卒	福家 大輝
太田 政子	伊藤 和宏	三井 宏	加藤 達仁	教職員
昭和53年卒	梅田 栄一	村山 竜一	伊掛 美里	大月 穰
伊藤 俊広	内田 陽子	平成元年卒	戸田 篤志	青山 忠
池本 俊一	桑折 敬子	磯崎 誠也	山崎 章	西村 克史
植松 一郎	中村 卓	木方 真理子	平成13年卒	榎 泰典
奥田 直史	山浦 信介	黒田 美和子	怡土 良信	梅垣 哲士
黒澤 鎌二	昭和58年卒	中島 研司	上原 直也	須川 晃資
小林 康秀	岩崎 好高	丸山 浩司	小島 正浩	鈴木 佑典
高木 英行	飯田 隆久	佐野 伸一	藤田 尚之	松下 祥子
原田 茂	一戸 玲子	和田 香織	宮本 浩樹	工藤 雅孝
原田 哲也	栗原 清文	平成2年卒	平成14年卒	山田 和彦
深津 誠	小林 洋明	石川 恵子	角田 雄亮	鎌田 健一
星原 晃	鈴木 好幸	城内 秀彦	横田 美紗子	
堀木 清二	関島 拓夫	小川 貴子	吉川 賢治	
市之宮 重雄	竹内 功	上條 潤	藤代 昭子	
昭和54年卒	田村 精一	平成3年卒	平成15年卒	536名
榎本 充男	竹村 忠憲	川野辺 晃生	堀川 達哉	
小笠原 幸道	高山 利治	坂田 純	石橋 さやか	
太田 延幸	長 茂輝	竹内 秀光	平成17年卒	
小坂 佳則	谷田貝 仁恵	村原 伸	赤澤 寛行	
清水 尚登	東島 紀子	穴山 正之		

編集後記

本42号も、執筆者の皆様のご協力により、無事に最終原稿を入稿し終えました。本年度は2024年に引き続き、日本化学会の春季年会が船橋校舎で開催されました(表紙参照)。母校が日本の化学界の中心地となったことを誇らしく感じるとともに、日々の教育・研究活動の積み重ねがこうした大きな舞台を支えているのだと再認識いたしました。

さて、今年は「午年」です。馬は古来より「物事がうまくいく」「前進する」象徴とされ、活気あふれる年になると言われています。年会では、多くの工化会メンバーが発表者としてまた運営役員として大車輪の活躍でした。この活気をそのままに、さらなる飛躍を目指し、教職員・学生一丸となって駆け抜けていく所存です。工化時報が時代とともに変化する大学の「今」を伝え、卒業生と在校生を繋ぐ架け橋となれば幸いです。今後も皆様の近況やご意見をお待ちしております。皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます、筆を置きます。(会報委員 西村克史)

お知らせ

令和8年度の行事予定

- 6/6(土) 15:00～ 工化会通常総会
16:30～ 懇親会・ホームカミングデー
詳細は工化会ホームページにてお知らせします
8/1(土)、8/2(日) CST オープンキャンパス(船橋)2026
11/1(日) 理工学部ホームカミングデー(船橋校舎)

連絡先

連絡先: 工化会ホームページをご覧ください

- ・住所変更に関するお問合せ

<https://koukakai.org/address/>

- ・住所変更以外のお問合せ

<https://koukakai.org/contact/>, FAX: 03-3293-7572



工化会ホームページ

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 件 : 1 0 , 0 0 0 円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀, 米田哲也

学科ホームページ, <https://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>

工化会ホームページ, <https://koukakai.org/>